



大阪・関西万博を契機とした「未来社会」の実現に向けて（大阪版万博アクションプラン）

政府の「2025年大阪・関西万博アクションプランVer.2」改訂に向けた要望

大 阪 府・大 阪 市

2022年12月改訂版

④ 自動運転

世界的に開発競争が激化する自動運転(レベル4相当)を、万博会場へのアクセスや会場内の移動で実現。安全・快適な未来のモビリティ社会の体験を通じ、その後の社会実装につなげていく。

テーマ	2022(現状)	2025(万博開催)	2030(万博後のめざす姿)
自動運転の実現	□自動運転の実証実験 ・万博会場となる夢洲等で、民間企業により実証実験を実施中(レベル2、4) ・実証実験のエリア拡大に向けた体制の構築  (出典)2025年日本国際博覧会協会HP ・郊外の高齢化が進む団地で地域の足として実証を実施中(レベル3 河内長野市)	万博会場 会場までのアクセスや会場内において、自動運転で安全に移動 ・主要駅等から万博会場へのアクセスをレベル4相当の自動運転化で輸送 ・広大な万博会場の移動を、自動運転車により安全に移動	□自動運転の社会実装 ・自動運転での移動サービスが普及拡大 

※自動運転レベル

- ・レベル2:部分運転自動化(人が運転)
- ・レベル3:条件付自動運転(システムが運転、緊急時は人が運転)
- ・レベル4:特定条件下における完全自動運転(システムが運転)

課題

▷万博開催時における自動運転（レベル4相当）の移動サービスの実現に向けた環境整備

レベル4相当の自動運転には路側センサー等のインフラ整備や、遠隔管制等に関する詳細なルール整備が必要。

▷自動運転（レベル4相当）の移動サービスの実証に対する財政的負担

安全な移動サービスを提供するためには、交通事業者が運行ノウハウを構築する実証等が必要であるが、財政負担が大きい。

国「アクションプランVer.2」の記載内容	● 自動運転の一層の推進＜デジタル庁、内閣府、警察庁、総務省、経産省、国交省＞ ● Beyond 5G ready ショーケースの実現＜総務省＞
国との協議状況	● 国において万博時にめざす自動運転の姿を整理。これを踏まえ、府・市、協会において計画を作成予定。 ● 国において、自動運転実証支援の予算を確保（R4補正）

国への提案・要望

▷万博開催時における自動運転（レベル4相当）実現のため必要な路側センサー等のインフラ整備

▷遠隔管制の運行基準や監視員の資格要件について具体的な制度の早期整備

▷運行事業者等が実施する自動運転（レベル4相当）移動サービスの実証・実装運行に対する財政支援

府・市の取組み

・ 自動運転の実証事業・実装支援（実証フィールドの提供など）